

柑橘類の北半球から南半球への移行は順調か

ASIAFRUIT 2023年5月9日

北半球の出荷量が少ないため、南アフリカ等南半球の輸出国は順調なスタート

南アフリカの柑橘類セクターは、北半球から南半球への出荷シーズンのスムーズな移行が期待できると聞かされている。

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)のジャスティン・チャドウィック代表は、世界柑橘類機関(WCO)の年次総会のデータを参照しつつ、地中海地域の出荷量が過去10年間で最少であることから、北半球から南半球への産地の切り替えは円滑なものになるはずだと述べた。(以下「」は同氏の発言)

「スペイン産の晩生のオレンジは4年間の平均を27%下回っており、スペインのヴェルナレモンは平均に対して32%少ない。」

WCOに提供されたデータによると、輸入価格は20~38%の大幅な上昇を示しており、レモンが最も値上がりした品目である。

WCOの報告書は、「ヨーロッパでは、南半球産の輸入柑橘類は他の果実、つまり過去2シーズンよりも量が多いと予想される核果類やバナナとの競争がある」としている。

チャドウィック氏は、世界の柑橘類の新植と栽培面積の伸びを指摘する。

「柑橘類の栽培面積は、2013年以降南半球で拡大している。オレンジの栽培面積13万2千ヘクタールから13万6千ヘクタールに緩やかな増加を見せたが、マンダリンの栽培面積は6万7千ヘクタールから8万8千ヘクタールに大幅に増加し、レモンについても同様に6万5千ヘクタールから8万7千ヘクタールに増加した。」

チャドウィック氏によると、オレンジの推定輸出量は157万トンで、依然として南半球の柑橘類輸出をリードしており、これは2022年に比べて2%増加し、5年平均よりも1%多い。

マンダリンは約100万トンで、2022年に比べて3%増加し、5年平均に比べて16%多い。ただし、マンダリンの最終的な数値は、暫定的な推定値よりも低いため、WCOの年次総会で提供された情報とは異なる。

レモンは92万8千トンで2022年より10%少なく、5年間の平均程度の水準である。

最後に、グレープフルーツは22万トンで、2022年に比べて13%、長期の平均より13%少ない。

チャドウィック氏は、南アフリカの生産者向けの報告の中で、今シーズンこれまでの輸出量は980万箱で、前年の650万箱を上回ることも明らかにした。

「2023年の推定を行う過程は、世界的な要因に関する不確実性と2022年の経験を踏まえ、非常に困難であった。検討を重ねた結果、マンダリン担当グループは、昨シーズンから7%増の3,410万箱に落ち着いた。ウンシュウミカンが予想出荷量155万7千箱のうち、すでに141万3千箱(91%)が梱包されており、ほぼ完了している。」

南アフリカの予想総出荷量は、昨年の1億6,480万箱に対し、依然として1億6,560万箱で変わらない。

執筆者: フレッド・メインチェス